（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0175400340		
法人名	医療法人　交雄会		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	紋別郡遠軽町生田原350番地　　生田原診療所2階		
自己評価作成日	平成27年6月25日	評価結果市町村受理日	平成27年8月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175400340-

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは診療所の2階にあり、ほとんどのご利用者様は1階の診療所医師がかかりつけ医となっており、日常の健康管理は慣れた環境の中で行われており、安心していただいております。出来るだけ本人やご家族の様のご希望に沿った生活を提供できるように、ご家族様とは沢山お話をさせていただき、皆が安心できるような介護を提供できるのが目標です。自然に囲まれた緑豊かな土地で、温かい地域の方々に見守られて日々暮らせることに感謝して、特別ではない普通の暮らしを守っていきたいと考えています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町４５３－３
訪問調査日	平成27年7月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	過去の入居者様の気持ちを反映したわかりやすい理念があり、今もその理念の下に暮らしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して12年目、地域からも沢山利用していただき、グループホームの生活もわかっていただくようになり、近所の方々の温かい目に守られた毎日を過ごせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトである職員は、地域の方々に認知症サポーター養成講座の講師をして認知症について伝えることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では、日々の生活を報告したりしている。又、運営委員の方々との話から、毎日の生活に役立つようなヒントを得たりして、サービスの向上に生かすようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場支所には施設便りを配布させていただき、職員や町民の方々に見ていただいている。又、支所長や保健師が運営委員として運営推進会議に出席していただいており、日ごろの生活ぶりや活動状況をわかったいただけている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前も現在も身体拘束はしていないが、今後とも身体拘束については皆で考える機会を持ち、より理解を深めていきたい。身体拘束係りがおり、身体拘束について考える機会を設ける役割をもっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	報道などで虐待が問題になるときなどを丁度良い機会と捕らえ、虐待係りを中心に、言葉や眼差しなどの虐待についての勉強会などを行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年月一度は権利擁護について勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定などの時には、文章での説明や面会時の口頭での説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議では、出席している家族や地域の方々・行政職員・包括支援センター・地域ケアマネなどと様々な話ができている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日の申し送りで話し合い、管理者やホーム長はみんなの意見に耳を傾け、理解するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況や労働状況などに目を向けて、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のOJT・OFF―JTに理解を示し、希望する研修などに出かけられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、地域のグループホーム仲間の勉強会や、ケアマネの研修・交流への参加に対して理解と協力を示している。実際、町内グループホームで年に数回勉強会も行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で、本人の気持ちをわかるように心を傾け、入居してからは、職員で情報を共有して安心を提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は様々な悩みや思いを抱えている方が多いので、まず入居を決めたことで安心を得られるように、心の中の思いにまで耳を傾けるようになりたいと思っている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族だけではなく、担当のケアマネやそれまで深く関わった人達からの情報を元に、一番大切な支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や片付け、編み物のやり方の指導、季節には山菜採りを一緒にしたりと、それぞれが出来る事を一緒にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が又顔を見に来たいと思えるような関係を作って行きたいと常々思い、日常の生活ぶりは楽しいことや家族が嬉しいと思う事を中心に伝える様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住まいを替えての暮らしとなるとなかなか同じ関係の継続は難しいのが現実なのだが、新しい環境でも、新たな馴染みの場所や環境が出来るように、趣味や興味を大切に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、話の弾むようにソファーでの座る位置の工夫や話題の調整をし、職員も輪の中に入ることで生き生きとした楽しい時間をすごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去してもしばらくの間は気にかけ・訪問などしてくださる家族がたくさんおり、職員全員の心の財産になっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちは把握出来ているように思っているが、表出できない方については、家族からの情報や生活歴から判断し、又はその時々の表情観察を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の基本情報を家族に記入してもらい、それを基にして馴染んだ生活を大切にして支援するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日夕食の買い物に行く方、図書館や散歩に出かける方、お茶を入れてくれる方、それぞれが出来ることやしたいことをできるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制であり、毎月の会議ではモニタリングやサービスについての話し合いを行っている。又、毎日の申し送り時では、その都度解決しなければならないことを話し合い、情報の共有に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、家族にもわかるように専門用語は使わないようにしている。朝夕の申し送りで丁寧に伝えて、同じ支援が継続してできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其々の家族の状況、入居者の今に注目し、今できる最大限の支援をするように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書の好きな方は図書館通い、信心深い方はお参り、歌や俳句に興味のある方は歌句碑ロードの散歩、自然に囲まれた毎日を過ごせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は1階の診療所であり自室やリビングで点滴などを受けられたりでき、更に診療所職員は、職員も利用者もなじみの関係であり生活ぶりも良くわかっていてくれているので、安心した暮らしが保てている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ系列の介護老人保健施設の看護師が週に一回来て健康管理しており、その際に状態報告や相談をし、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員は必ず付き添いをして状態報告やその後の相談もできている。入院中の状態確認には出来るだけ頻回に行く様にし、病状説明時にも家族と同席、退院後の対応方法についても細かな助言をもらうようにして本人が慣れた環境の自分の部屋に早く帰って来られる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでに数人の看取りも行い、状況に応じた説明や相談を家族と密にし、医療機関の助言を受けながら住み慣れた場所で最期まで出来るだけすごせるようにと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練は毎年行っている。又、何らかの処置の際には、時間やタイミングの工夫をしてその時にいる職員が同席し、いつでも皆が同じような処置を出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年一回は地域の方々の協力を得て行い、他に何度か施設内だけでの避難訓練を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄誘導の言葉かけに関しては、あまりはっきりとした表現はしない様に、失敗した時には、相手が恥ずかしいと感じさせないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩に行きたい・図書館に行きたい・買い物に行きたい・お風呂に入りたい・お腹が空いたなど、したいやりたいことには、できるだけ満足してもらえるる対応できるように考えて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の希望を表せる方には希望をかなえるようにしているのだが、特に希望を表すことが出来ない方に関しては感じ取るように、職員間の情報交換を蜜に行い、嬉しい・楽しいの表情を大切にしたいと思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決められない方々に対しては、持参してきている衣類や写真などから好みを推測したりしては衣類の支度をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付け・献立など、出来るときに出来そうな方と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調・年齢・心身の状況に応じて、適切な量や形態を提供している。又、食事や水分の摂取量・状態についての記録も残しており、情報は共有できるるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は職員が最終的には清潔保持を確認し、自分で磨ける方・自分の歯の方については、声かけや磨いている様子を観察観察することで口腔内清潔を保持できるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員の都合による排泄誘導はしないように、排泄チェック表や個人記録から見えてくる個別のパターンから把握できる排泄支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳や、毎朝のヨーグルト、水分摂取の調節など、便秘で苦しい思いをしないように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3人くらいの方は入浴好きなのでほとんど毎日入浴しており、他の方々も一日おきには入ってもらっている。あまり入りたくない方に対しては、上手く入れるような情報を共有して、入浴が出来るタイミングを見ながら誘導をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活を出来るだけ大切にしたいと思い、、就寝時間は決まっておらず、疲れた・眠たい様子が見えたときにお昼寝やベッド誘導をするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬は一覧になって誰でもすぐ確認できるようになっており、服用前にも名前などの確認をするようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗拭きやお茶いれ、編み物やパズルなどの、一人ひとりが興味を持って楽しめるようなすごし方の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や読書・近所のワンコとのふれあいやお地蔵様のお参り、季節ごとの花見ドライブや同じグループの介護老人保健施設の行事に参加したりと、楽しいこと・行きたい所・したいことにできるだけ対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	わずかなお金を所持している入居者は一人いるが、使うことはしない。手持ちしていることで安心している様子が伺える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りをしている入居者今現在はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	肌と肌の触れ合える広さの狭い居間で、互いに触れ合いながら、ほとんどの入居者が朝から晩まで穏やかに過ごせている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人の入居者は、180度自然が見渡せるリビングの大きな半円の窓から食卓椅子に座って外の風景やパークゴルフの人々をのんびりと眺めたり、顔と顔がくっつく位の近さでおしゃべりに花を咲かせていたりと、それぞれが自分らしい過ごし方をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん、使い慣れたベッドやタンスを持ち込んでおり、おそらく慣れ親しんだ匂いや色の中で心地よい眠りが保てていると思う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内印・居室のわからない方は名札・自分で作った折り紙などで、わかる工夫をしている。		